

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572608990	
法人名	有限会社 ゆう愛	
事業所名	グループホーム サン・ピア	
所在地	秋田県仙北郡美郷町六郷字熊野118-1	
自己評価作成日	平成29年9月29日	評価結果市町村受理日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

サン・ピアではご利用者様が安心して生き生きと生活できますよう、一人ひとりのペースを大事にし、出来る事が活かせるような支援をしております。職員は月1回の社内研修や社外研修に参加し、社外の情報を得ることで、偏りのない介護のレベルアップに努めております。地域との交流も盛んで、利用者様や職員が地域行事への参加は勿論、地域の方々がゆう愛主催の行事への参加や、毎月開催の介護予防教室への参加も定着してきており、関係が楽しくなっていると思います。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1
訪問調査日	平成29年11月6日

創業者の「地域とともに、地域に選ばれ、地域に還元する」という思いが、長きにわたって受け継がれている。地域住民から野菜等を頂いたり、中庭で一緒にバーベキューを楽しんだり、避難訓練や地域交流会等行事にも参加してもらっている。介護予防教室や認知症カフェを開催し、健康体操や脳トレ等を楽しみながら学べる場を提供し、双方向の関係づくりが構築されている。開設当初より終の棲家として意識が高く、看取りを実践している。研修を重ね、利用者と家族の思いに寄り添い、看取り後のカンファレンスでは反省を含め次に活かせるようにケアの振り返りを行っている。職員は笑顔で礼節をもって接し、利用者のゆとりある穏やかな生活を実現できている。苦情を天使の声だと前向きにとらえ、前進しようとしているこのサン・ピアに、更なる質の向上を目指すことに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホールの見えやすい場所にケア理念を掲示しており、職員全員が共有し、日々の実践に心掛けている。	地域と共に歩み、還元できる施設を目指して、職員の発想で「笑顔、やさしさ、ゆとりある生活を、地域と共に生きる」の理念を作り上げた。ホールに掲示し、朝の申し送り後に唱和している。利用者のペースに合わせた対応を心がけ、常に理念に立ち返ることで、ケアの実践につながっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加やこちら側の行事があるときなどは、お誘いもしている。地域の方々とは会えばお互いにあいさつも交わしている。地域交流会には地域の方々にも参加していただいている。	介護予防教室や認知症カフェを定期的開催し、認知症に効果的な料理として、鯖カレーを調理実習で紹介した。地域に必要な活動を積極的に情報発信している。また、地域住民が野菜等を届けてくれたり、鍋敷き等の作業活動や、お茶飲みと称し児童館で利用者と触れ合う機会も多く、顔馴染みの関係ができています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	認知症何でも相談所を設置している他、運営推進会議で、認知症に関する研修への参加を報告したり、町主催のキャラバンメイトに参加したりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事への参加や事業所の取り組みを報告している。ご意見をいただいた時には、サービス向上に活かせるようにしている。	近隣の水害災害を例に、参加メンバーで対策を講じ、水害マニュアルを改訂した。行政職員、町内会、老人クラブのメンバーの他に警察官も参加するようになったことで、活動報告にとどまらず、防犯や事故の情報提供もあり、相互間の意見が交わされ、活発な意見交換の場となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には行政や町内会長等の参加もあり、意見や助言をいただいている。又、管理者やケアマネジャーは日頃から連絡を密にしている。	役場の方に勧められたと認知症相談で訪ねて来る方もおり、行政と協力関係が築き上げられている。認知症地域連携パス試行予定で、立ち上げメンバーとしてパンフレット作りに参加している。地域包括支援センターの依頼で、管理者はキャラバンメイト指導者研修を受講予定となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修を通し何が身体拘束にあたるのか、全職員が理解し業務に努めている。日中は玄関の施錠もしておらず、身体拘束をしないケアに努めている。	入居時に家族ヘリスクの説明を行い、納得と理解を得られるよう共有している。ヒヤリハット発生時は、即ミーティングを行い、対策を講じている。公休職員には後日管理者から報告し、更に職員会議で話し合っている。職員全員が正しく理解できるよう年に1回研修を実施し、身体拘束をしないことへの理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間研修計画に組まれている。日々の関わりの中に虐待の要素がないか注意を払い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間研修計画に組まれており、学ぶ機会を設けているが実際の活用機会はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は利用者様や家族様がわかりやすく、不足のない説明を心がけ、理解・納得を図っている。改定等あればその都度文書で連絡している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員らに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年6回の運営推進会議でご利用者様やご家族様の意見を伺うことができている。助言があった時は運営に反映させるようにしている。	月に1回近況報告と写真を同封し、家族へ報告するとともにモニタリング用紙に家族の要望欄を設け、記載できるようにしている。家族の繁忙に配慮し、同意を得た方にはメールやFAXでも対応している。いただいた要望は反映できるようにしている。	月1回の報告で満足する家族もいれば、そうでない家族もあり、感じ方はそれぞれなので、現在提供できるサービスについての詳細な情報を伝え、コミュニケーション量を増やす、伝える手段を変える等工夫し、意見や思いとして表出されたものが、出来るだけ具現化できるように期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や面談の場を設け、意見を出したり提案を聞く機会を設けている。	月1回職員会議で、社長への要望として表出できる時間が設けてある。利用者が外出する際に使用する公用車の購入やトイレの手すりの設置、利用者の利便性を考慮し、男子トイレを女子トイレに改装する予定も職員からの意見が取り入れられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や資格手当を設け職場環境・条件の整備に努めていると思う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の社内研修の他、外部での研修にも参加している。今年度は会社が費用を負担し、介護職員初任者研修や実務者研修に参加している職員もいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部での研修や病院主催での研修へ参加するなど、ケアの方法や考え方の違いを学ぶことができている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期のご利用時は特に不安な事や困っている事がないか、耳を傾けながら安心出来るような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期のご利用時は特に家族が困っていたり不安に思っていること、要望等に耳を傾けながら安心出来るような関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事、得意なことが活かされるように働きかけている。一緒に生活しているという意識で関わっている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員で対応出来ない時などはご家族様に協力を依頼することもあり、協力体制を築けていると感じる。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人の面会の他、行きつけの床屋などへの外出支援をしている。	地域に暮らす顔馴染みの人や親戚の方々が訪ねてくれたり、行きつけの理容室に定期的に散髪に行っている他、お盆のお墓参りや法要のため外出する利用者がいる等、これまで培ってきた人や場とのつながりの継続が出来ている。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の関係にも配慮しながら関わりを持つようにしている。耳の遠い方には職員が仲介に入るなどし、支援している。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了してもいつでも相談に応じられる旨を伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り本人や家族の思いを受け取れるように話しを伺ったりし、意向の把握に努めている。	何気ない日常会話の中で、行きたいところや食べたい物等を把握し、些細な事柄でも個人記録や申し送りノートに記載して職員間で共有し、誕生会やドライブ日等で実践している。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様や以前のサービス利用時のケアマネから情報を得たりしている。個人ファイルで確認が可能である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録や日々の申し送りノートで速やかに現状把握できている。月末の職員会議でも1か月の様子や変化について報告し合っている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の申し送りや職員会議で現状のリスクや支援方法について話しあっており、介護計画にも反映されている。	困っていることや危険な事を含め、職員全員でアセスメントし、計画書原案に基づいて、家族も参加し、担当者会議を開催している。モニタリングは家族が5段階で満足度評価し、評価欄に意見を書き込めるようになっており、計画書に反映させるようにしている。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿った記録をしており、個人記録や申し送りから情報を共有している。モニタリングにより現行の介護計画の見直しが出来ている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人行きつけの美容院・かかりつけ医療機関を継続して利用できるよう支援している。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医、かかりつけ薬局等を利用するようにしている。その他週1回の訪問看護、月1回の往診が受けられる協力医療との関係も築いており、適切な医療を受けられるように支援している。	本人及び家族の希望する病院へ受診介助している。その他往診や歯科診療、訪問看護が受けられる医療体制が整えられている。受診後は電話や手紙等で内服薬の変更や内服方法の変更等を含め状態報告をしている。職員間では受診ノートで申し送り、情報共有し状態把握に努めている。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週の訪問看護時に状態の推移を報告し、指示を仰いでいる。体調変化、急変時の相談も可能である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は出来る限りの面会に努めており、病院での様子や状態の変化を担当看護師から聞き、ホーム内で情報共有している。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には必ず説明し、その時期の体調に合わせ、主治医、家族との話し合いの時間を設け、方針を共有している。	契約時に「重度化した場合の対応に関わる指針」に沿って説明し、状態に応じて主治医、家族、事業所で話し合い、看取り計画書を作成し、交付している。看取り後は他利用者も合掌し、礼拝を職員と一緒にやっている。看取り後のカンファレンスでは、反省や次に活かせること等話し合っている。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	2年に1度の普通救命救急講習があるほか、緊急時対応マニュアルがあり、それに沿って対応することになっている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練(今年は水害時の想定もした)を実施し、避難方法を全職員が身につけると共に近所への協力を依頼している。	避難訓練は地域住民に役割を依頼し、年2回実施している他、近隣の水害災害を鑑み、改めて避難方法や避難場所を想定し、訓練も実施した。防災委員会を設置し、食料品の他、ストーブやカッパ、テントを常備している。避難時に居室表札をはずすと避難済となるよう工夫し、各居室前にマスクも常備している。玄関にはヘルメットも備えられていた。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーや尊厳が損なわれることの無いよう、言葉掛けには気を付けて対応している。	居室に入室する際は、事前に利用者に許可を得て、ドアをノックし、利用者の不快につながらないようにプライバシーに配慮している。自尊心を損ねるような利用者同士の会話は、意図的に職員が介入し、さりげなく話題を変える等対応している。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自分の思いや希望を表に出せるように傾聴したり、自己決定出来るように働きかけをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に一人ひとりの生活のペースを大切にしている。予定の時間に声掛けをし、お誘いするがその時の気分や状態に合わせて過ごせるようにしている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様と相談しながら、季節や場所にあったものを身に付けられるように支援している。毎日の整髪や髭剃り等は勿論、美容院や床屋へ外出し、おしゃれを楽しめる支援もしている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの食の好みを把握し、毎回とはいかないが献立に採り入れたりしている。季節の野菜や山菜は地場のものをもとめるようにしている。食材の皮むきや食後の食器拭きなどにも参加していただいている。	利用者とチラシを見ながらメニューを考えたり、食べたい物をバイキングや誕生日会で提供している。野菜の皮むきや毎食後の食器拭きは習慣化されており、利用者が自発的に行っている。地域住民からの差し入れの柿を、利用者が皮むきをした干し柿があった。食を通じて生活行為の自立につながっている。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事を把握できるように記録に残している。水分や食事が摂れていないときは、管理者や訪看さんに指示を仰いでいる。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持のため、毎食後一人ひとりにうがいや歯磨きをしてもらっている。寝る前には入れ歯を洗浄剤につけ、清潔保持を支援している、		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄のパターンを把握すると共に、トイレに行っていない方には声掛けにて誘導し、トイレでの排泄を支援している。	排泄チェック表を活用し、その方に合わせた時間でトイレ誘導を行い、排泄の失敗につながらないようにしている。排泄意の確認は大声で言わないように、羞恥心に配慮した声かけを実践している。フォーレバックは他者から気づかれぬようカバーをかけるなど、配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、なるべく下剤に頼らず、飲食物の工夫をしたり運動への参加の呼びかけもしている。便秘が続いているときは下剤で調整している。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	定期的な入浴になるようにしているが、ご本人の体調や希望により前後することもある。ゆっくりした気持ちで楽しんでいただくため、入浴剤を使うこともある。	入浴準備を一人で行っている方は、曜日を決めてほしいと要望があるため固定で対応しているが、他の方は不定期で週2回程度入られている。同性介助希望者には、希望通りになるよう配慮している。入浴拒否時は入浴剤を使い、快の感情を引き出せるよう工夫している。前回指摘された重度化に対応できる入浴の体制についてはシャワーキャリーを購入し、改善していた。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して気持ちよく眠れるように、寝具は清潔を保ち、室温や掛物の調整には気を配っている。規則正しい生活を送ってもらえるように支援している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報はファイルしておりいつでも確認できるようにしている。体調や症状に変化がみられるときはかかりつけ医や訪看にもすぐ相談するようになっている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や嗜好品・楽しみごとを理解し一人ひとりが「出来る」ことを役割として行ってもらえるように支援している。嗜好品についても体調や薬剤に影響がなければ楽しんでもらっている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に沿って戸外への外出は希望があれば支援しているし、家族からの希望があれば一緒に外出できるように支援している。又、みんなで出かけられるように外出の機会を設けたり、地域行事への参加もできている。	角館の桜や山内の紅葉等季節に合わせて外出をしたり、南部屋敷、回転寿司、池田庭園等利用者の要望に応じて外出している。家族が外出、外泊を行うこともあり、日常的に外出の機会があり、気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所預かりの方が大半であるが、自身で持ち、本人の希望により、買って来て欲しい物のリストがあがれば職員が代わりに買い物をして支援している方もいる。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自身から電話をかけたいとの申し出があった時には電話をかけられるようになっており、支援している。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	館内を清潔に保つことは勿論、こまめな換気やカーテンによる採光調整・臭い対策として消臭剤の活用をしている。生花や装飾で季節感を感ぜられるようにしている。	玄関には生花を飾り、ホールに手作りの大きな日めくりカレンダーや利用者の意見を取り入れながら模様替えをし、時や季節感を感ぜるしつらえになっている。床暖房のため、こまめな換気と温度・湿度チェックを行い、隅々まで拭き掃除して清潔かつ快適に過ごせるように環境を整えている。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は勿論、リビングに集い、思い思いに過ごせるような空間作りに工夫している。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の使い慣れた物や、好みのものを本人や家族と相談しながら用意し、居心地よく過ごせるように工夫している。	仏壇、位牌、遺影、家族写真、TV、冷蔵庫等様々な馴染みの物や好みの物を持ち込まれている。また、家族も花を飾る等居心地の良い雰囲気づくりをしている。身体能力低下に伴い、家族と相談のうえ、ベッドに手すりを設置することで、立位が安定し自立支援につながっていた。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが自立した生活を送れるように居室やトイレにはわかりやすく表示し、ひとりで「わかること」、「出来る事」を活かせるように工夫している。		